令和８年度第１回評価委員会結果の概要

１．委員会の概要

日時： 令和８年９月 10 日(木) 13:30～15:10

場所： 株式会社水みらい広島本社第二会議室および Web 会議

議事： (1) SDGs への取り組みについて

- 『水』分野での SDGs 活動
- 『組織』分野での SDGs 活動
- 『環境』分野での SDGs 活動

２．報告内容

以下２点についての内容を記載する。

(1) 令和８年度における委員の選任

(2) SDGs への取り組みについて

３．令和８年度における委員の選任

今年度の第三者評価委員会（以下、「本委員会」という。）は以下の委員より評価をいただくことになった。

所属	所属部署・職名	氏　名	
公益社団法人日本水道協会 水道技術総合研究所	計画調整室　計画調整課長	窪田　忠仁	続投
広島ガス株式会社	経営企画部　経営企画室長	渡部　真也	続投
呉工業高等専門学校	教授	黒川　岳司	続投
広島工業大学	名誉教授	今岡　務※	続役
水道技術経営パートーナーズ株式会社	代表取締役	山口　岳夫	続投

※第１回委員会について欠席

４．SDGs への取り組みについて

水みらい広島で設定している 9 つの取り組み項目について目標と取組項目を共有した。

表１　SDG s 取組概要

あるべき姿	目標	取組項目
『水』 清浄にして豊富低廉な水の安定供給に貢献し、人々の暮らしと健康を守る	安全な水の安定供給を継続する	①　水道事業の持続的な経営を確保するための Cyber Physical System の構築
	水道料金上昇の抑制に貢献する	②　無効水量等の異常値検出を補助するアプリケーションソフトの開発
	限りある資源を大切に使う	③　これまでに収集された運転データや管理データの整理と解析
		④　「人々の暮らしと健康を守る水道」を広めたい！広報活動の拡充
『組織』 多様性が認められる、誰もが働きやすく働き甲斐のある職場、自らの能力を発揮できる職場を実現する	社員が能力を最大限に発揮できる環境を整え、「働き甲斐」を向上させる	⑤　「働きがい」を向上させる、人事・研修・その他の制度の構築
	女性社員が能力を高め、継続就業できる職場環境を整える	⑥　女性従業員が十分な能力を発揮できる環境整備
	仕事と生活の調和を図りやすい職場環境を整える	⑦　仕事と生活の調和を実現する職場づくり
	水道を支える人材を育成する	
『環境』 環境に配慮しながら社会課題の解決や地域社会の健全な発展に貢献する	再利用などを検討し、環境負荷を低減する	⑧　浄水汚泥の再利用率の向上
	CO^2削減に努める	⑨　デマンドレスポンス参画による CO^2削減
	限りある資源を大切に使う	

【取組項目①】水道事業の持続的な経営を確保するための Cyber Physical System の構築

〇最終目標

Cyber Physical System の構築

〇2025 年度の取組み

(1) 広域運転監視システムの保守管理業務

・ 広島県広域運転監視システムの本稼働を開始し、年間を通じて保守管理業務を実施

(2) ロボットを活用した、浄水場における日常点検業務の省人化の検証

・ 埜田浄水場にて日立製作所と PoC 実証の実施

〇2026 年度に予定している取組み

(1) 広域運転監視システムを活用した省人化

・ 広域運転監視システムを活用し、複数施設の監視体制を効率化した省人化の推進

【取組項目②】無効水量等の異常値検出を補助するアプリケーションソフトの開発

〇最終目標

水道スマートメーターの普及と自動検針データの有効活用

※昨年度までの目標「アプリケーションソフトの開発」は完了

〇2025 年度の取組み

(1) 漏水検知アプリケーション

・ 開発及び社内展開の完了

(2) 「水道自動検針及び SMS 通知サービス」の導入実証

・ 実証のシステム構築（水道スマートメーターと自動検針システム、SMS 通知サービス）

〇2026 年度に予定している取組み

(1) 水道スマートメーター関連業務及び検針データの活用

・ 北広島町内において水道自動検針データの収集及びデータを活用した漏水検知の実証

【取組項目③】これまでに収集された運転データや管理データの整理と解析

〇最終目標

業務効率化及び維持管理費用の低減に資する AI の開発と Cyber Physical System との連携

〇2025 年度の取組み

(1) 白ヶ瀬浄水場のカビ臭場内増加に関するデータ解析と運転方案の検討および検証

・ 排水処理工程の汚泥滞留時間について、新たに設定した汚泥滞留時間（3 日以下）内で管理を継続し、かび臭の場内増加の低減を達成

(2) 薬品注入 AI 開発について

・ 薬注 AI モデルの実運用

(3) 電力使用量削減シミュレーター開発について

宮浦浄水場向けシミュレーター

・ オンライン実証の実施と実証結果の取りまとめ

・ シミュレーター活用による契約電気料金の削減

〇2026 年度に予定している取組み

(1) AI 開発の取組み

・ 運転管理業務の効率化に資する業務支援アプリの開発と現場業務への実装準備

【取組項目④】「人々の暮らしと健康を守る水道」を広めたい！広報活動の拡充

〇最終目標

人々の暮らしと健康を守る水道について、積極的な広報活動を実施する

〇2025 年度の取組

(1) 2025 広島水道展への出展

(2) DX セミナーの開催

(3) 学校訪問型講習の実施

(4) 地域イベントへの参画

〇2026 年度に予定している取組み

(1) 第 3 回 DX セミナーの開催

・ 2026 年 11 月 11 日 『第 3 回水みらい広島 DX セミナー～AI で加速する水道 DX～』

(2) 水道 DX 企業イメージを定着させるための情報発信

・ ホームページ、パンフレットの更新及び対外向け情報発信の強化

(3) 出前水道教室等の学校訪問型講習の実施

・ 小学校出前水道教室／高校出張講座

(4) 地域イベントへの参加

・ 三原水道週間、尾道水道フェスタ、水みらいカップ

【取組項目⑤】「働きがい」を向上させる、人事・研修・その他の制度の構築

〇最終目標

(1) 社員が能力を最大限に発揮できる環境を整え、「働きがい」を向上させる

(2) 水道を支える人材を育成する

〇2025 年度の取組み

(1) エンゲージメント調査の実施

(2) 人事制度の再構築

(3) MBO 運用の強化

(4) 社内研修の実施と社外向け研修の準備

〇2026 年度に予定している取組み

（1） エンゲージメント調査の実施（継続）

- 調査結果から得られた課題に対する改善効果の検証
- 調査結果の各種制度や MBO の改善に繋げる仕組みの定着

（2） 人事制度の運用（継続）

- 制度定着に向け管理職及び従業員への継続的な説明研修の実施
- 円滑な運用・定着、運用課題の改善

（3） MBO 運用強化（継続）

- 評価者・被評価者研修実施により精度・納得感を向上

（4） 研修の実施（継続）

- 水みらいアカデミーの開設
- 体系的な人材育成の推進

【取組項目⑥】女性従業員が十分な能力を発揮できる環境整備

〇最終目標

女性社員が能力を高め、継続就業できる職場環境を整える

〇2025 年度の取組み

（1） 女性社員や管理職への聞取り

（2） 積極的な採用活動

（3） 全社的な意識改革とハラスメント防止対策の推進

〇2026 年度に予定している取組み

（1） 女性社員や管理職への聞取り（継続）

- 聞き取りで得られた意見の制度や組織運営への反映

（2） 積極的な採用活動（継続）

- キャリア形成制度や子育て中の女性社員の働き方紹介で女性へ当社の魅力アピール

（3） 全社的な意識改革とハラスメント防止対策の推進（継続）

- セクハラ、マタハラ防止研修、アンコンシャス・バイアス研修などを通した意識改革の実施

【取組項目⑦】仕事と生活の調和を実現する職場づくり

〇最終目標

仕事と生活の調和を図りやすい職場環境を整える

〇2025 年度の取組み

（1） 育児休業に関する制度の見直し

（2） 男性の育児休業取得促進

（3） 家族応援企画

（4） 年次有給休暇等の取得奨励

〇2026 年度に予定している取組み

（1） 育児休業の取得しやすさの向上

- 育児休業に伴う職場への負担に対する体制の検討

（2） 年次有給休暇の取得促進および長時間労働是正のための措置の実施

- 部署ごとの業務の偏り、負荷を考慮した体制の検討
- 労働時間の適性把握、年次有給休暇の取得勧奨

【取組項目⑧】浄水汚泥の再利用率の向上

〇最終目標

（1） 浄水汚泥の再利用率の向上

（2） 紙資源削減による環境負荷の低減（2026 年度から新たに設定）

〇2025 年の取組み

（1） 浄水汚泥の再利用先の探索と実験の開始

〇2026 年度に予定している取組み

（1） 浄水汚泥再利用先の調査及び検討

（2） SMS 活用による紙資源削減

【取組項目⑨】デマンドレスポンス参画による CO_2削減

〇最終目標

（1） デマンドレスポンス参画による CO_2削減

（2） 契約電力の見直しによる環境負荷の低減（2026 年度から新たに設定）

〇2025 年度の取組み

（1） 2025 年度の容量市場参画（応動要請なし）及び応動テストの実施

〇2026 年度に予定している取組み

（1） 2028 年度容量市場参画に向けた応動テスト

（2） 契約電力削減の取組み

- 契約電力抑制シミュレーターの活用によるポンプ同時稼働台数の抑制

また、評価委員からは以下のご意見・ご感想をいただいた。

【水】分野

- AI、DX、スマートメーター、漏水検知など先進技術への取組は評価でき、今後の進展に期待する。一方で、サイバーセキュリティや AI 活用に伴うリスクへの備えと説明責任の強化が重要である。
- 水質管理や気候変動対応などの基盤業務についても継続的な改善が求められる。
- 学校向け出前授業など地域社会への貢献活動は高く評価でき、継続・拡大が期待される。

【組織】分野

- 女性活躍推進、育児支援、エンゲージメント向上、人材育成などの取組は着実に進められており、全体として良好な組織運営が行われている。特に産休・育休からの復職実績や制度利用の定着は、働きやすい職場環境が醸成されていることを示す成果として評価できる。一方で、取組の継続だけでなく、「前年から何が進化したのか」「新たな施策や成果は何か」をより分かりやすく示すことが求められる。
- 水みらいアカデミーや新人事制度、MBO 制度の見直しなど新たな人材育成・組織運営施策については、今後の成果に期待が寄せられた。経営層と従業員とのコミュニケーションやフィードバックの充実により、さらなるエンゲージメント向上につながることが期待される。

【環境】分野

- 環境分野では、汚泥資源化、紙資源削減、デマンドレスポンスといった取組を着実に推進しており、全体として評価できる。

全体について

- 今後は気候変動による渇水・豪雨への対応や、大規模地震をはじめとする自然災害への備えを強化し、災害対応や事業継続の観点も含めた取組の充実が期待される。
- AI・DX・環境・人材育成・災害対応を総合的に推進しながら、水道事業の持続可能性向上に引き続き取り組むことが期待される。

以上